



4. 長期利殖目的で保有する福岡商事株式会社の株式について、**配当金¥200,000 (源泉所得税 20%控除後の金額)** が当社の普通預金口座に振り込まれた。

配当金をもらった仕訳です。普通預金/受取配当金

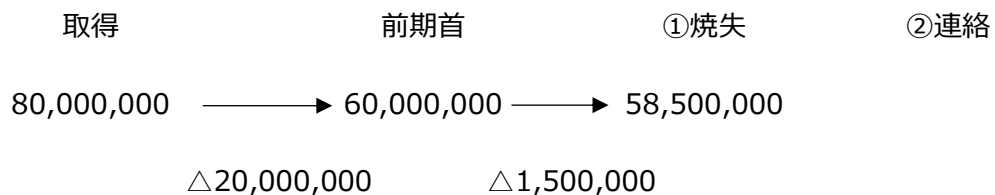
税金を 20%控除後 200,000 円ですので、200,000 円は 80%です。

元々の金額は  $200,000 \div 80\% = 250,000$  円

普通預金	200,000	受取配当金	250,000
仮払法人税等	50,000		

銀行は個人も法人も区別せず『所得税』ですが、会社が納めるので『法人税』の仮払で仕訳します。

5. ×年 5 月 12 日、前期の 10 月 22 日に発生した火災により焼失した商品倉庫 (**取得原価は¥80,000,000、前期首における減価償却累計額は¥20,000,000、前期首から焼失時までの減価償却費は¥1,500,000、記帳方法は間接法であり、焼失時に帳簿価額の全額を未決算勘定に振り替えていた**) について、保険会社より保険金¥60,000,000 を翌月末に支払う旨の連絡を受けた。



①焼失時の仕訳

減価償却累計額	20,000,000	建	物	80,000,000
減価償却費	1,500,000			
未決算	58,500,000			

②連絡を受けた仕訳(今回の答え)

未収入金	60,000,000	未決算	58,500,000
		保険差益	1,500,000

## 第 2 問 (20 点)

連結は単純合算を修正していきます。修正は 6 つ

- ① 投資と資本の相殺消去
- ② のれんの償却
- ③ 子会社の当期純損益の振り替え
- ④ 子会社の配当金の修正
- ⑤ 内部取引と債権債務の相殺消去
- ⑥ 未実現利益の消去

## ① 投資と資本の相殺消去

P 社は×1 年 3 月 31 日に S 社議決権株式の 60%を¥5,200,000 で取得。

×1 年 3 月 31 日	資 本 金	5,000,000	S 社 株 式	5,200,000
	利 益 剰 余 金	2,600,000	非 支 配 株 主 持 分	3,040,000
	の れ ん	640,000	$(5,000,000 + 2,600,000) \times 40\%$	

のれんは最後に、貸借差額で入れてください。

資本金・利益剰余金・非支配株主持分は、S/S (株主資本等変動計算書) にそれぞれの当期首残高に記入。

## ② のれんの償却

計上した『のれん』は計上年度の翌年度から 20 年で償却  $640,000 \div 20$  年

×2 年 3 月 31 日	の れ ん 償 却	32,000	の れ ん	32,000
---------------	-----------	--------	-------	--------

(利益剰余金)

## ③ 子会社の当期純損益の振り替え

S 社が稼いだ利益を非支配さんに分けます。

資料の『利益剰余金』の金額の変化から S 社の利益を読み取ります。

S 社 資 本	×1年 3 月 31 日	×2年 3 月 31 日	×3年 3 月 31 日
資 本 金	¥ 5,000,000	¥ 5,000,000	¥ 5,000,000
利 益 剰 余 金	¥ 2,600,000	¥ 3,000,000	¥ 3,500,000
合 計	¥ 7,600,000	¥ 8,000,000	¥ 8,500,000

[ここに入力]

×1年3月31日 ➡ ×2年3月31日はプラス400,000 40%は非支配さんの分ですので160,000

×2年3月31日	非支配帰属利益	160,000	非支配株主持分	160,000
----------	---------	---------	---------	---------

(利益剰余金)

④ 子会社の配当金の修正

資料にないので、配当は行ってないようです。

ここまでが×2年の3月31日の処理です。

続いて、×3年3月31日の処理

① は処理済です

② のれんの償却

×3年3月31日	のれん償却	32,000	のれん	32,000
----------	-------	--------	-----	--------

③ 子会社の当期純損益の振り替え

S社資本	×1年3月31日	×2年3月31日	×3年3月31日
資本金	¥ 5,000,000	¥ 5,000,000	¥ 5,000,000
利益剰余金	¥ 2,600,000	¥ 3,000,000	→ ¥ 3,500,000
合計	¥ 7,600,000	¥ 8,000,000	¥ 8,500,000

×2年3月31日 ➡ ×3年3月31日はプラス500,000ですが、答案用紙を見るとS社960,000配当をしています。

			160,000		
剰余金の配当	1,800,000	960,000		960,000	1,800,000
親会社株主に帰属する当期純利益	( 3,360,000 )	( 1,460,000 )	6,957,000	5,626,200	( 3,489,200 )
利益剰余金当期末残高	( 8,500,000 )	( 3,500,000 )	9,749,000	6,586,200	( 8,837,200 )

利益剰余金の金額は、

$$\times 2 \text{年} 3 \text{月} 31 \text{日} \quad 3,000,000 + \text{当期純利益} - \text{配当金} = \times 3 \text{年} 3 \text{月} 31 \text{日} \quad 3,500,000$$

配当金が960,000ということは、当期純利益は500,000+960,000=1,460,000

1,460,000のうち、40%は非支配さんの分ですので584,000

×3年3月31日	非支配帰属利益	584,000	非支配株主持分	584,000
----------	---------	---------	---------	---------

[ここに入力]

④ 子会社の配当金の修正 960,000 を 60%と 40%に分けます。

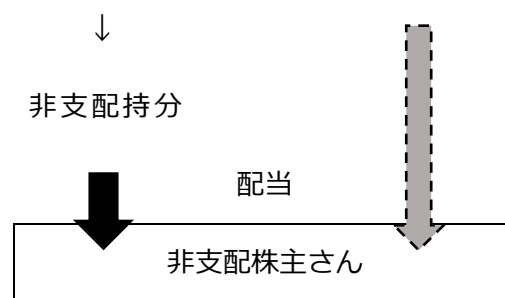
×3 年 3 月 31 日	受 取 配 当 金	576,000	剰 余 金 の 配 当	960,000
	非 支 配 株 主 持 分	384,000		

借方の非支配株主持分がわかりにくいですが、子会社の利益から非支配さんに 584,000 配っています。

その中から配当するべきなのに、このままだと親会社利益から配当されてしまいます。

さっきやった利益から配当しろよ！ってことで、非支配株主持分が減ります。

$$P \text{ 社利益} + S \text{ 社利益} = \text{親会社利益}$$



⑤ 内部取引と債権債務の相殺消去

当期の P 社による S 社に対する売上高は ¥5,600,000 である。

×3 年 3 月 31 日	売	上	5,600,000	売 上 原 価	5,600,000

S 社の当期末仕入債務残高のうち P 社に対する金額 ¥1,310,000 が含まれている。

×3 年 3 月 31 日	買	掛	金	1,310,000	売	掛	金	1,310,000

売上債権の期末残高に対して 2%の金額を貸倒引当金として設定している。

×3 年 3 月 31 日	貸 倒 引 当 金	26,200	貸 倒 引 当 金 繰 入	26,200

( 売 上 債 権 )

( 販 売 費 お よ び 一 般 )

貸倒引当金がないので、売上債権に含めます。

⑥ 未実現利益の消去

P 社は当期より売上総利益率 30%による商品販売を開始。S 社の期末商品棚卸高のうち ¥550,000 は P 社から。

×3 年 3 月 31 日	売 上 原 価	165,000	商 品	165,000

借方の売上原価がわかりにくいです。『しい・くり・くり・しい』の期末の仕訳『くり・しい』を

未実現利益の分ひっくり返して取り消しています。

[ここに入力]

ここまでの仕訳を精算表に入れます

連 結 精 算 表

科 目	個別財務諸表		修正・消去		連結財務諸表
	P 社	S 社	借 方	貸 方	
<b>貸借対照表</b>					<b>連結貸借対照表</b>
売 上 債 権	3,620,000	1,830,000	26,200	1,310,000	
商 品	2,450,000	1,150,000		165,000	
S 社 株 式	5,200,000	—		5,200,000	
そ の 他 資 産	30,730,000	17,020,000			
の れ ん			640,000	32,000	
				32,000	
資 産 合 計	42,000,000	20,000,000			
仕 入 債 務	( 2,600,000 )	( 1,980,000 )	1,310,000		( )
そ の 他 負 債	( 18,900,000 )	( 9,520,000 )			( )
資 本 金	( 12,000,000 )	( 5,000,000 )			( )
利 益 剰 余 金	( 8,500,000 )	( 3,500,000 )			( )
非支配株主持分					( )
負債・純資産合計	( 42,000,000 )	( 20,000,000 )			( )
<b>損益計算書</b>					<b>連結損益計算書</b>
売 上 高	( 25,680,000 )	( 14,400,000 )	5,600,000		( )
受 取 配 当 金	( 1,880,000 )		576,000		( )
売 上 原 価	12,960,000	7,440,000	165,000	5,600,000	
販売費及び一般管理費	11,240,000	5,500,000		26,200	
の れ ん 償 却			32,000		
非支配株主に帰属する当期純利益			584,000		
親会社株主に帰属する当期純利益	( 3,360,000 )	( 1,460,000 )			( )
<b>株主資本等変動計算書</b>					<b>連結株主資本等変動計算書</b>
資本金当期首残高	( 12,000,000 )	( 5,000,000 )	5,000,000		( )
資本金当期末残高	( 12,000,000 )	( 5,000,000 )			( )
利益剰余金当期首残高	( 6,940,000 )	( 3,000,000 )	2,600,000		( )
			32,000		
			160,000		
剰余金の配当	1,800,000	960,000		960,000	
親会社株主に帰属する当期純利益	( 3,360,000 )	( 1,460,000 )			( )
利益剰余金当期末残高	( 8,500,000 )	( 3,500,000 )			( )
非支配株主持分当期首残高				2,040,000	( )
				160,000	
非支配株主持分当期変動額			384,000	584,000	( )
非支配株主持分当期末残高					( )

[ここに入力]

ここから 連結 P/L → 連結 S/S → 連結 B/S の順に完成させます。

- ① 連結 P/L (損益計算書) で『P 社+S 社-非支配=親会社利益』を計算
- ② 計算された親会社利益を、連結 S/S (株主資本等変動計算書) に書きうつす。
- ③ 利益を含めた後の期末純資産を連結 B/S (貸借対照表) に記入する。

① 連結 P/L (損益計算書) を集計します。

② P/L で集計された『親会社株主に帰属する当期純利益』を S/S (株主資本変動計算書) に書き写します。

非支配株主持分					( )
負債・純資産合計	( 42,000,000 )	( 20,000,000 )			( )
<b>損益計算書</b>					<b>連結損益計算書</b>
売上高	( 25,680,000 )	( 14,400,000 )	5,600,000		( 24,880,000 )
受取配当金	( 1,880,000 )		576,000		( 1,304,000 )
売上原価	12,960,000	7,440,000	165,000	5,600,000	14,965,000
販売費及び一般管理費	11,240,000	5,500,000		26,200	16,713,000
のれん償却			32,000		32,000
非支配株主に帰属する当期純利益			584,000		584,000
親会社株主に帰属する当期純利益	( 3,360,000 )	( 1,460,000 )	6,957,000	5,626,200	( 3,489,200 )
<b>株主資本等変動計算書</b>					<b>連結株主資本等変動計算書</b>
資本金当期首残高	( 12,000,000 )	( 5,000,000 )	5,000,000		( )
資本金当期末残高	( 12,000,000 )	( 5,000,000 )			( )
利益剰余金当期首残高	( 6,940,000 )	( 3,000,000 )	2,600,000		( )
			32,000		
			160,000		
剰余金の配当	1,800,000	960,000		960,000	
親会社株主に帰属する当期純利益	( 3,360,000 )	( 1,460,000 )	6,957,000	5,626,200	( 3,489,200 )
利益剰余金当期末残高	( 8,500,000 )	( 3,500,000 )			( )

③ S/S に集計された、資本金当期末残高・利益剰余金当期末残高・非支配株主持分当期末残高を

B/S に書き写します。

仕 入 債 務	( 2,600,000 )	( 1,980,000 )	1,310,000		( )
そ の 他 負 債	( 18,900,000 )	( 9,520,000 )			( )
資 本 金	( 12,000,000 )	( 5,000,000 )	5,000,000		(12,000,000) ⊙
利 益 剰 余 金	( 8,500,000 )	( 3,500,000 )	9,749,000	6,586,200	(8,837,200) △
非 支 配 株 主 持 分			384,000	3,784,000	(3,800,000) □
負債・純資産合計	( 42,000,000 )	( 20,000,000 )			( )
損益計算書					連結損益計算書 ↑
売 上 高	( 25,680,000 )	( 14,400,000 )	5,600,000		(24,480,000)
受 取 配 当 金	( 1,880,000 )		576,000		( 1,304,000 )
売 上 原 価	12,960,000	7,440,000	165,000	5,600,000	14,965,000
販売費及び一般管理費	11,240,000	5,500,000		26,200	16,713,000
の れ ん 償 却			32,000		32,000
非支配株主に帰属する当期純利益			584,000		584,000
親会社株主に帰属する当期純利益	( 3,360,000 )	( 1,460,000 )	6,957,000	5,626,200	(3,489,200)
株主資本等変動計算書					連結株主資本等変動計算書
資本金当期首残高	( 12,000,000 )	( 5,000,000 )	5,000,000		(12,000,000)
資本金当期末残高	( 12,000,000 )	( 5,000,000 )	5,000,000		(12,000,000) ⊙
利益剰余金当期首残高	( 6,940,000 )	( 3,000,000 )	2,600,000		( 7,148,000 )
			32,000		
			160,000		
剰余金の配当	1,800,000	960,000		960,000	1,800,000
親会社株主に帰属する当期純利益	( 3,360,000 )	( 1,460,000 )	6,957,000	5,626,200	(3,489,200)
利益剰余金当期末残高	( 8,500,000 )	( 3,500,000 )	9,749,000	6,586,200	(8,837,200) △
非支配株主持分当期首残高				3,040,000	(3,200,000)
				160,000	
非支配株主持分当期変動額			384,000	584,000	( 200,000 )
非支配株主持分当期末残高			384,000	3,784,000	(3,800,000) □

すべて埋まると貸借対照表の資産合計と負債・純資産合計が一致します。

貸借対照表					連結貸借対照表
売 上 債 権	3,620,000	1,830,000	26,200	1,310,000	4,166,200
商 品	2,450,000	1,150,000		165,000	3,435,000
S 社 株 式	5,200,000	—		5,200,000	
そ の 他 資 産	30,730,000	17,020,000			47,750,000
の れ ん			640,000	32,000	576,000
				32,000	
資 産 合 計	42,000,000	20,000,000	666,200	6,739,000	54,927,200
仕 入 債 務	( 2,600,000 )	( 1,980,000 )	1,310,000		(3,270,000)
そ の 他 負 債	( 18,900,000 )	( 9,520,000 )			(28,420,000)
資 本 金	( 12,000,000 )	( 5,000,000 )	5,000,000		(12,000,000) ⊙
利 益 剰 余 金	( 8,500,000 )	( 3,500,000 )	9,749,000	6,586,200	(8,837,200) △
非 支 配 株 主 持 分			384,000	3,784,000	(3,800,000) □
負債・純資産合計	( 42,000,000 )	( 20,000,000 )	16,443,000	10,370,200	(54,927,200)
損益計算書					連結損益計算書 ↑

[ここに入力]



## 第 3 問 (20 点)

## 〔資料Ⅱ〕 決算整理事項等

## 1. 銀行残高証明書残高との不一致の原因。

(1) 売掛金 ¥ 50,000 の振り込みが**未記帳** ➡ 仕訳する。

当 座 預 金	50,000	売 掛 金	50,000
---------	--------	-------	--------

売掛金の変動すると、貸倒引当金の設定に影響が出ます。

(2) 買掛金 ¥ 48,000 の小切手が**未呈示**

未呈示『取引先が銀行に小切手を持ってきていない』 取引先が銀行に来たら解消される。

仕訳なし			
------	--	--	--

(3) 広告宣伝費 ¥ 30,000 の小切手が**未渡し**

未渡し『取引先に小切手を渡したと思っていたけど、渡していなかった』

当 座 預 金	30,000	未 払 金	30,000
---------	--------	-------	--------

広告宣伝費の未払ですので貸方「未払金」です。

2. 定期預金は、**当期の 8 月 1 日に期間 3 年**、利率年 0.5%、利息は満期日に受取る条件。

8/1	3/31
8 ヵ月	

$$600,000 \times 0.5\% \times 8 \text{ ヵ月} \div 12 \text{ ヵ月} = 2,000$$

未 収 利 息	2,000	受 取 利 息	2,000
---------	-------	---------	-------

当期から期間 3 年なので、決算日から 1 年以上先になります。固定資産「長期性預金」

3. **受取手形および売掛金の期末残高に対して、2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。ただし、受取手形のうち ¥ 70,000 は X 社に対するもので、個別に 50%の貸倒れを見積もる。**

$$\text{受取手形 } 524,000 - 70,000 (\text{X 社分}) = 454,000$$

$$\text{売掛金 } 646,000 - 50,000 (1 (1)) = 596,000$$

$$1,050,000 \times 2\% = 21,000$$

$$\text{『個別』 } 70,000 \times 50\% = 35,000$$

$$\text{必要額は } 21,000 + 35,000 = 56,000$$

残高試算表の中に貸倒引当金がすでに 16,000 あるので、

$$\text{繰入額は } 56,000 - 16,000 = 40,000$$

貸 倒 引 当 金 繰 入	40,000	貸 倒 引 当 金	40,000
---------------	--------	-----------	--------

[ここに入力]

## 4. 商品の期末棚卸高

帳簿（あるはずの商品） → 実地（ほんとにある商品）

$$\text{帳簿} : 560 \text{ 個} \times @\text{¥}600 = 336,000$$

$$\text{実地} : 550 \text{ 個} \times @\text{¥}540 = 297,000$$

△ 39,000 ← これだけ無くなっている。

**個数のズレが『棚卸減耗損』** (550個 - 560個) × @600 = △6,000

**値段のズレが『商品評価損』** (@540 - @600) × 550個 = △33,000

BOX 図は書いた方が無難でしょう。**タテに単価・横に数**を書きます。

@600	商品評価損	棚卸減耗損	336,000
@540	297,000		
	550 個	560 個	

『あるはず』の帳簿金額で『しい・くり・くり・しい』します。

仕 入	240,000	繰 越 商 品	240,000
繰 越 商 品	336,000	仕 入	336,000

実際の商品は 297,000 なので、39,000 繰越商品を減らします。

借方は棚減と評価損に分けます。

棚 卸 減 耗 損	6,000	繰 越 商 品	39,000
商 品 評 価 損	33,000		

## 5. 減価償却

建物は定額法・備品は 200%定率法とありますが、その先を読むと『**建物は 12,000、備品は 18,000 円を 11 カ月計上してきている。**』

4 月～2 月まで、毎月この仕訳をしているということ。そして今月（3 月）もします。

減 価 償 却 費	30,000	建物減価償却累計額	12,000
		備品減価償却累計額	18,000

[ここに入力]

## 6. リース資産の減価償却

契約した当期首の仕訳は、**利子抜き法です**ので利息を含まない、**見積現金購入価額**で仕訳します。

リース資産 450,000      リース債務 450,000

リース料を払った仕訳は

リース債務 150,000      現金 156,000

支払利息 6,000

残高試算表にリース資産 450,000、リース債務 300,000、支払利息 6,000 がのっていますので、ここまでの仕訳は終わっています。

**リースの減価償却は、リース資産の金額をもとに行います。**

$$450,000 \div 3 \text{年 (リース期間)} = 150,000$$

減価償却費	150,000	減価償却累計額	150,000
-------	---------	---------	---------

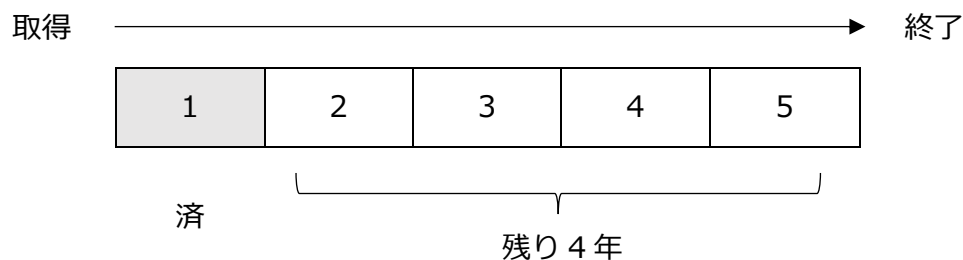
リース債務は来期分と来々期分に分けて表示します。リース債務の半分を『長期』に振り替えます。

リース債務	150,000	長期リース債務	150,000
-------	---------	---------	---------

## 7. ソフトウェアの償却

よくあるひっかけです。『**前期の期首**』と『**償却期間 5 年で償却**』がポイントです。

この 5 年は取得の時からです。前期の期首に取得だから、1 年たって、残り 4 年ということです。



ソフトウェアの減価償却は、定額法、残存ゼロ、直接法です。

$$\text{ソフトウェア } 80,000 \div 4 \text{年} = 20,000$$

ソフトウェア償却	20,000	ソフトウェア	20,000
----------	--------	--------	--------

8. 保険料

12 月 1 日に 3 年分を前払い。

保険料 72,000 が 3 年分ということですので、1 か月に直すと。

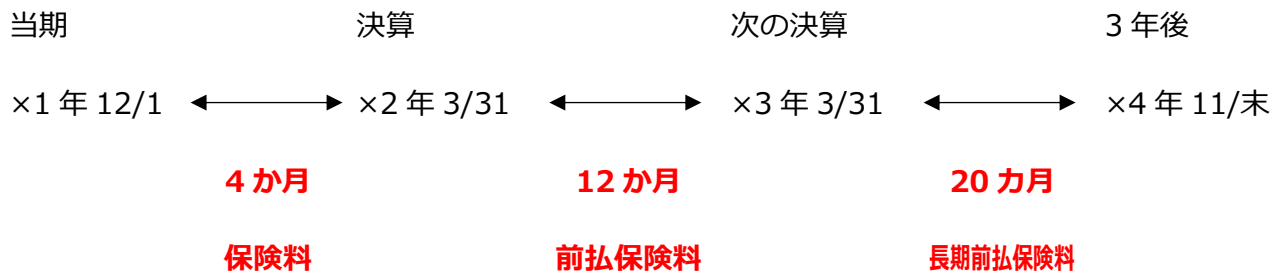
$$72,000 \div (3 \text{ 年} \times 12 \text{ か月}) = 2,000 / \text{月}$$

72,000 のうち、当期分は 12/1~3/31 までの 4 か月分  $2,000 \times 4 \text{ か月} = 8,000$

未経過分は  $72,000 - 8,000 = 64,000$

64,000 のうち、来期分 (12 か月分) は『前払』、そこから先は『長期前払』 (36 - 4 - 12 = 20 か月分)

前 払 保 険 料	24,000	保 険 料	64,000
長 期 前 払 保 険 料	40,000		



9. 未払費用

前期末に計上した広告宣伝費の未払額の再振替

未払 = 負債 = 貸方です。残高試算表でも貸方に 12,000 入っています。

前期末にこんな仕訳がされています。

広 告 宣 伝 費	12,000	未 払 費 用	12,000
-----------	--------	---------	--------

再振替はひっくり返すので

未 払 費 用	12,000	広 告 宣 伝 費	12,000
---------	--------	-----------	--------

これと当期の未払額を計上します。

広 告 宣 伝 費	15,000	未 払 費 用	15,000
-----------	--------	---------	--------

## 10. 法人税の計上

法人税は『税法』のルールで払え！と言われます。一方、損益計算書は会計のルールです。

すこしずれます。

会計上の利益は 640,000 ですが、将来減算一時差異が 40,000 あります。

将来減算一時差異は、『当期、法人税を払うから**将来**の法人税が**減る**』→『法人税の前払い』です。

つまり、当期にこの分も払え！と言われています。

請求される法人税の金額は、(税引前の純利益 640,000 + 40,000) × 30% = 204,000

**仮払があるので忘れずに取り消してください。**

法人税、住民税および事業税	204,000	仮払法人税等	80,000
		未払法人税等	124,000

## 11. 税効果会計を適用

10. で出てきた将来減算一時差異 40,000 を処理します。

$40,000 \times 30\% = 12,000$

繰延税金資産	12,000	法人税等調整額	12,000
--------	--------	---------	--------

法人税の前払は「繰延税金資産」で仕訳します。相手勘定は「法人税等調整額」

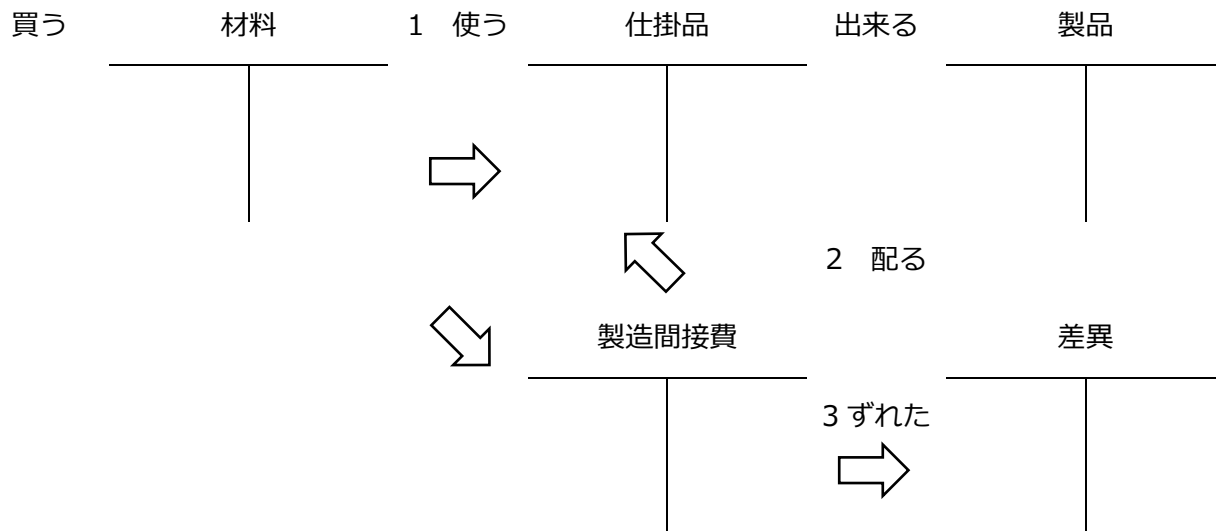
『法人税等調整額』は税法上の法人税（払う金額）を、会計上の法人税（利益に税率をかけた金額）に修正するものです。費用と考えてください。今回は貸方に出ているのでマイナスです。

収	益	〇〇	
費	用	△△	
税引前当期純利益		640,000	
法人税、住民税および事業税	204,000		← 払う金額 204,000
法人税等調整額	△12,000	192,000	← 会計上の金額
当期純利益		448,000	640,000 × 30%

第 4 問 (28 点)

(1) (12 点)

工業簿記の仕訳問題は勘定連絡図を覚えておくと楽です。



1. 材料 750 kgを消費した。月初の材料は 100kg(290 円)。購入は 800 kg(335 円)の平均法

**材料を『使う』仕訳です。** 材料 → 仕掛品・製造間接費

平均法で 1 kgあたりの単価を計算します。

$$@290 \times 100 \text{ kg} + @335 \times 800 \text{ kg} = 297,000 \quad 297,000 \div 900 \text{ kg} = @330$$

No. 1 に 300 kg No. 2 に 200 kg No. 3 に 150 kg 使い、修繕に 100 kg使っています。

No. が付いているものは、「仕掛品」に集計。ついていないものは「製造間接費」に集計です。

仕 掛 品	214,500	材 料	247,500
製 造 間 接 費	33,000		

2. 予定配賦率@800 円で製造間接費を予定**配賦**

**製造間接費を『配る』仕訳です。** 製造間接費 → 仕掛品

仕 掛 品	440,000	製 造 間 接 費	440,000
-------	---------	-----------	---------

$$@800 \times (250 \text{ 時間} + 200 \text{ 時間} + 100 \text{ 時間}) = 440,000$$

3. 製造間接費配賦**差異**の計上。

**製造間接費が『ずれた』仕訳です。** 予定額 → 実際額に修正します。

$$\text{実際の製造間接費} \quad \text{間接材料 (1)} \quad 33,000 + \text{間接労務費} \quad 168,000 + \text{間接経費} \quad 241,000 = 442,000$$

$$\text{予定} \quad 440,000 \quad - \quad \text{実際} \quad 442,000 = 2,000$$

製造間接費配賦差異	2,000	製 造 間 接 費	2,000
-----------	-------	-----------	-------

[ここに入力]

(2) (16 点)

総合原価計算 連続して作っている製品の完成品の原価を計算します。

BOX 図を書きます。

生産データから個数 (加工費は換算量)

原価データから金額

材料費			加工費		
月初	319,800	完成	月初	50,200	完成
400		1,000	80		1,000
当月		<del>仕損</del>	当月		<del>仕損</del>
900	762,000	100	1,120	756,000	40
-100		月末	-40		月末
		200			160

仕損が 40%、月末が 80%、完成は 100%ですので、仕損の費用は両者負担。

先入先出法なので、『当月単価→月末単価』になります。

問 1

月末仕掛品

$$\text{材料費} : 762,000 \div 800 = @952.5 \times 200 (\text{月末}) = 190,500$$

$$\text{加工費} : 756,000 \div 1,080 = @700 \times 160 (\text{月末}) = 112,000$$

完成品

$$\text{材料費} : 319,800 + 762,000 - 190,500 = 891,300$$

$$\text{加工費} : 50,200 + 756,000 - 112,000 = 694,200$$

問 1

仕 掛 品		完 成 品	
		(単位 : 円)	
月初仕掛品原価	( 319,800+50,200 )	完成品原価	( 891,300+694,200 )
直接材料費	( 762,000 )	月末仕掛品原価	( 190,500+112,000 )
加工費	( 756,000 )		
	( 1,888,000 )		( 1,888,000 )

[ここに入力]

## 問 2 仕損品が 1 個 900 円で売れる

当月の材料費から @900 × 100 個 = 90,000 差し引きます。

材料費		加工費	
月初	319,800	月初	50,200
400		80	
	完成		完成
	1,000		1,000
当月	762,000	当月	756,000
900		1,120	
	仕損		仕損
	100		40
-100	月末	-40	月末
	200		160
	-90,000		

## 月末仕掛品

$$\text{材料費} : (762,000 - 90,000) \div 800 = @840 \times 200 (\text{月末}) = 168,000$$

$$\text{加工費} : 756,000 \div 1,080 = @700 \times 160 (\text{月末}) = 112,000$$

## 完成品

$$\text{材料費} : 319,800 + 762,000 - 90,000 - 168,000 = 823,800$$

$$\text{加工費} : 50,200 + 756,000 - 112,000 = 694,200$$

$$823,800 + 694,200 = 1,518,000$$



第 5 問 (12 点)

CVP 分析の問題です。CVP は収益 - 費用 = 利益を分析して、目標売上金額などを計算するやり方です。

収益 - 費用 = 利益のうち、費用を変動費と固定費に分けます。

$$\begin{array}{l} \text{収益} - \text{費用} = \text{利益} \\ \downarrow \quad \swarrow \\ \text{収益} - \text{変動費} - \text{固定費} = \text{利益} \end{array}$$
 このうち、収益 - 変動費を「貢献利益」と呼びます。

タテに並べるとこんな感じ ↓

収 益	
変 動 費	△
貢 献 利 益	
固 定 費	△
利 益	

問 1 弁当 1 個の貢献利益額

『収益 - 変動費』を貢献利益と呼びます。

$$\text{収益@600 円} - \text{原料@200 円} - \text{変動加工費@150 円} - \text{変動販売費@50 円} = \text{貢献利益 200 円}$$

問 2 損益分岐点販売量 何個売ったら赤字にならないか

損益分岐点は損も得もしない。つまり利益が 0 円の時の売上です。

固定費は  $9,400,000 + 2,600,000 + 4,000,000 = 16,000,000$  ですので、

弁当が A 個売れたとすると、利益に 0 を入れます。

収 益	600A	
変 動 費	△ 400A	
貢 献 利 益	200A	
固 定 費	△ 16,000,000	
利 益	<b>0</b>	

200A - 16,000,000 = 0 ということです。

A = 80,000 個

[ここに入力]

問 3 安全余裕率

販売量を 100,000 個と予定しています。

安全余裕率とは、分岐点をどれだけ上回っているかの割合です

予定 100,000 - 分岐点 80,000 = 20,000 上回っている。

$20,000 \div \text{予定 } 100,000 = 20\%$

この割合



分岐点 80,000	余裕 20,000
売上 100,000	

問 4 目標営業利益

目標売上高営業利益率 12%

利益が収益の 12% ですので、利益のところが変わります。

収 益	600A	
変 動 費	△ 400A	$200A - 16,000,000 = 600A \times 12\%$
貢献利益	200A	$200A - 16,000,000 = 72A$
固 定 費	△ 16,000,000	$128A = 16,000,000$
利 益	<b>600A × 12%</b>	$A = 125,000 \text{ 個}$